とかす力（八木重吉の詩を愛好する会会報）

事務局（連絡先）〒277-0014　千葉県柏市東 3-8-34　柏第一宣教バプテスト教会
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊天利武人（教会牧師）電話 04-7164-9159
（会報編集、ホームページの連絡先）〒270-1406 千葉県白井市中 205 小林正継
＊＊＊＊＊＊　Ｅメール　kmat27aiko@gmail.com　　携帯電話 09061674553

☆　第　１０　号
☆2015 年（平成 27 年）
6 月 10 日　発　行

★あなたの「八木重吉との出会いとその詩の魅力」原稿、継続募集。第 1 冊配布

皆さんの、愛する重吉に対する思いを原稿にしてください。ファンの思いを後世に残すという目標で企画していますので、続けて募集します。今まで 3 人の方が書いてくださいましたので、手製で第 1 冊として発行します。追加で欲しい方は、編集室までお申し込みください。

（募集）　題：「八木重吉との出会いとその詩の魅力」
字数：２０００字程度（原稿用紙５枚以内、パソコンのワード歓迎）
締切：なし（随時お送りください）
送り先：メール（　kmat27aiko@gmail.com へ）か
郵送で　　〒270-1406　千葉県 白井市 中２０５ 小林正継へ

（配布）　第 1 冊の追加申し込みは、郵送で（82 円切手 3 枚同封して）上記へ申し込んでください。
上記の料金で３冊送ります。

★昨年度の報告

１）茅ケ崎の「八木重吉の会」の詩碑建立９周年の集まり

２０１４年１０月２日、平成１７年の「蟲」建立から９周年を記念して、詩碑の前での集まりが催されました。１１時半、詩碑の前で、会長の川井盛次さん、川井春江さん（奥様）、吉村薫さん、太田きよ子さん、吉住裕子さん、亀井瑞世さん、原友信さんと私（小林）が参加し、まず各自の好きな詩の朗読をし、その後「蟲」と讃美歌「うるわしの白百合」が歌われました。そして黄色の百合、コスモス、菊（もってのほか）が飾られた詩碑の前で記念撮影をしました。私は見逃してしまったが、黄色の蝶々が飛んでおり、９周年を祝っているような出現だと吉村さんが語っていました。

その後詩碑の隣にある茅ケ崎美術館内にある「サンカフェ」で昼食を取りながら交流と時を持ちました。川井さんが用意された資料から、重吉の感性がずばり表現される言葉、例えば

秋になると
果物はなにもかも忘れてしまって
うっとりと実ってゆくらしい

の下線部に感じられる宗教的な境地を語られました。仏教的風土に育ち、キリスト教信仰をもった重吉の信仰は、真摯な求道によって、重吉独自の信仰となって行きました。

また重吉夫人が歌人吉野秀雄と再婚して成果を訪れた時、吉野秀雄は歌をいくつか読み上げ、その中の

畠中に茶の木垣結ふ墓どころ茶の花潔しけふの忌日に

という歌は、重吉命日の集まり「茶の花忌」の名のもとになり

重吉の妻なりしいまのわが妻よためらわずその墓に手を置け

は、吉野秀雄の心の広さを示しており、吉野秀雄の協力があって『定本八木重吉詩集』が生まれ、重吉の詩が世に広まっていったとのことでした。二人の性格の違いはあっても、重吉も秀雄も純粋な心でつながっています。登美子さんは、重吉については『琴はしずかに』で、秀雄については『わが胸の底ひに』という本を書き、二人の人物像と登美子との結婚生活を教えてくれています。貴重な記録を残してくれた登美子さんもすばらしい人格の人でした。

川井さんの話の後に、柏の愛好会の話を中心に、若者たちに伝えて行きたい思いを私が話すと、他の方々が、近くにある大学の学生を巻き込むとか、教科書に載るよう働きかけるなど、アイデアを教えてくださいました。また柏の会報『とかす力』に意味があるのかと聞かれて

愛
うつくしいこころがある
恐れなきこころがある
とかす力である
そだつるふしぎである

の詩からとったことを伝え、重吉の魅力の一つは、その詩が人の心を癒す力、苦悩の塊をとかす力があることだと語らせていただきました。

茅ケ崎は、市長の大決断もあって、茅ケ崎ゆかりの文人を紹介する人物館が建設されているとのこと。財政難のご時勢、文化関係の予算がまず削られる中にあって、茅ケ崎は、文化施設を積極的に活用して人々が集まる観光地にしようと動いていて、すばらしいことだと思いました。将来八木重吉の資料もそこに保管されるなら、貴重な重吉関係の資料を集めていた小川宣二さん（体調を崩してからひっそりとしてしまって、今どうされているのか不明）あるいは小川さんの家族に連絡を取って、埋もれてしまわないように保存してほしいと、会の方々にお願いして来ました。

２）柏の愛好会事務局が八木重吉について理解を深める講演会を開く

２０１４年１０月４日（土）午前１１：００～１２：３０
「教師としての八木重吉」（講師　小林正継）
１０月５日（日）午前１０：３０―１２：００
「クリスチャンとしての八木重吉」（天利武人牧師）

の２つの講演を、事務局で開きました。

私（小林）は、詩人として評価される八木重吉は、教師としては今一つという見方が一般的ですが、教師としての苦労があったから、文学や信仰世界へ深く入っていくことになり、また生徒を神の化身と思って努力する信仰により、生徒たちに真摯に教えようとしていたことを語りました。教壇を去る最後に、「キリストの再来を信

ず」と言い残したと言われていますが、信念を語る人生の教師でもありました。

天利武人牧師は、八木重吉が聖書を徹底的に読み、自分の罪を自覚し、イエスキリストに絶対的信頼を寄せる信仰をもったことから、人の魂に訴える詩を書く詩人になったことを語られ、人生における信仰の重要さを強調されました。

★　2014 年の茶の花忌報告

天気予報通りの、曇りで時折日がさすちょうどよい天候でした。昨年は台風で、中止になってもおかしくない中で、決行されただけに、今回は良かったと思いました。しかし約 50 名ぐらいの集まりでしたから、一時は 130 名ぐらいも集まっていた頃と比べると少しさびしさを感じました。

１時より小林茂牧師による墓前礼拝。重吉愛唱歌の讃美歌３２２番を歌って、牧師の感話があり、その後庭に戻っての集会。今年も八木藤雄さんは体調悪くて入院しているとのことで顔が見えませんでした。開会、閉会のあいさつを八木藤雄さんの母方生家の阿部さんがされ、閉会のときには、藤雄さんの代理で茶の花忌を運営されている長女の佐藤ひろ子さんも挨拶されました。

今回は重吉の弟の故野坂純一郎氏の息子さんである野坂孝さんが、神谷和代著『美に哀しむ』という詩画集に付けられた解説の中に書かれている、純一郎氏にとっての兄重吉の存在について語ってくださいました。教師、絵画、短歌など重吉と同じような生き方をしていた純一郎氏は、単に兄を尊敬すると言うより、重吉の真摯な生き方に感化されており、重吉の死にはとてもショックを受けていました。クリスチャンにこそならなかったが、重吉の一途な求道の果ての死をきっかけに、一時京大の哲学科に入って、人生求道の道に進みました。このことは、重吉が、おそらく学生時代から英語による聖書読みや英文学を通しての研究から、深い人生求道の道に入っていたことを暗示させます。学生時代の日記が生家の消失で失われてしまったので、ストレートに実証する手がかりはありませんが、純一郎氏との関係から推測できる部分があり、今後の研究の一分野になると思われます。

次の加藤正彦さんの話は、父君である故哲雄さんとその兄であった加藤武雄と重吉の関係が語られ、重吉が哲雄さんの歌集『暗黒時代』の批評を兼ねて出した手紙を紹介して下さった。農業をしている哲雄さんに、重吉は「天地の正業」と励まし、農民が短歌を作ることに、「光明に接するだろう」と喜んでいます。故郷を離れ農業から遠ざかった重吉ではあっても、ふるさとの農業にたいする思いは良きものとして残っていたことがわかります。

野阪孝さん

加藤正彦さん

保坂健二さん

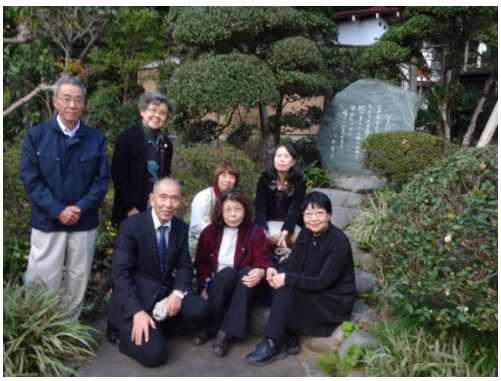
次の保坂健二さんは、重吉が昭和２年の３月、寺に奉納したと言う火鉢を紹介されました。１０月に亡くなる重吉が弟の純一郎と名を連ねて奉納しているのです。奉納されたものは、普通その家に持ってこないものだそうだが、保坂さんが勝手にこの日のために借りてきてしまったと言っていました。表面に梅の彫刻も施され、生家が裕福な農家であったことが思われます。また銘文は、「梅香真所愛／橋鼻到吟邊」とあるが、「梅が香る真に愛する所　／橋の鼻その辺りに至りて吟ず」つまり〈この寺あるいは相原大戸の地は梅の良き香りがする非常に愛すべきところであり、橋の鼻の辺に立ってその美をめでて歌いたい気持ちである〉というような意味です。兄弟とも詩歌に通じ、同じような道を歩み、弟が兄を尊敬していたことを考えると、二人の名で奉納されていること

は、ほほえましいことです。

地域に関しては、２年前に小中一貫校となった、ゆくのき学園「大戸小学校」が、昨年、台風でなければ、３，４年生の学習発表として、「相原の詩人八木重吉の世界」と題して重吉の生涯を詩の朗読や語り、合唱を通して演ずる予定だったとのことで、翌２７日に上演された様子のパネルを保坂さんが紹介して下さった。身近にいた心の詩人を思い、歌える小学生は幸せなことであると思いました。

最後は、恒例の奈良操さんによる重吉の歌唱でした。「心よ」「虫」「素朴な琴」「万象」「ふるさとの川」「光遊び」「花と空と祈りより」を歌われました。２歳の時にご母堂を亡くされた奈良さんにとって、とくに「ふるさとの川」は、思いを込めて歌われるとのことでした。

歌手の奈良さん（右）



愛好会の仲間

３時過ぎに閉会となりましたが、バスがなかなか無くて、１時間ぐらいバス停で待ちました。その間、奈良さんや野坂さん、乗松さん、赤嶺さん、佐藤、池田、伊藤さん親子、津原さんらと語り合うことが出来ました。橋本駅で別れて帰途に就きました。来年こそは藤雄さんの顔を見たいと思いますが、親類の方々が協力して助けている事もすばらしいと思いました。

今年の茶の花忌の概要

２０１５年の茶の花忌は、相模原市の城山で「地域の歴史こぼれ話を語る会」で活躍されてきた田中次雄氏が、八木重吉の詩碑を巡り丹念に調べて来られた内容を発表して下さる予定が立てられています。生まれ育ちは兵庫県西宮ということで、八木重吉との不思議な縁もあって、重吉への愛着を持って詩碑を巡られた貴重な話を聞くことが出来ると思います。

折しも、今年は、茅ケ崎の詩碑「蟲」の建立１０周年、柏の詩碑「原っぱ」建立３０周年に当たり、共に重吉を愛する組織をもっており、田中氏の話しの後に、茅ケ崎、柏の建立の思い出を、序幕式を催した者として短く語ることも予定しています。是非、八木重吉の愛好者である皆様、そして愛好者の知人にも声をかけて参加されることを期待しています。

建立１０周年になる
茅ケ崎の詩碑「蟲」

建立３０周年になる
柏の詩碑「原っぱ」

★ホームページ

昨年から「八木重吉の詩を愛好する会」のホームページを開設しています。八木重吉の案内と、愛好会の案内と、大きく左右に分けて情報を発信（提供）し、また連絡欄を通して全国の愛好者と情報を共有していきたいと思っています。ぜひご利用ください。

ホームページのアドレスと、管理者への問い合わせや情報提供のためのＥメールアドレスは以下です。

ホームページアドレス　http://www.yagijuaiko.com/　（作成途中の部分があることをご了解下さい）

Ｅメールアドレス　kmat27aiko@gmail.com　（管理者小林正継）